

Koga Scenery Award Map

古河市景観賞とは？

古河市では、平成23年1月に景観法に基づく景観行政団体となり、同年3月に古河市景観計画を作成、平成25年3月に古河市景観条例を制定し、市の良好な景観づくりを推進しています。景観形成事業の一環として、古河市景観賞を開催しており、優れた景観の形成、啓発、普及に貢献していると認められる個人または団体に対し、表彰状・記念品を贈っています。



景観賞

Koga Scenery Award Map

めぐり



古河市景観賞

平成28年度、平成30年度、令和2年度に受賞した作品の抜粋です。
発行／古河市役所 都市計画課 令和3年2月

募集部門

まちなみ建築部門(古河景観まちなみ賞)

市内にある建築物、工作物、その他の物件で、優れた景観のもの
(QRコードで場所の検索ができます)

まちづくり活動部門(古河景観ふるまい賞)

おおむね2年以上継続している活動で、古河市景観に貢献している団体

2 大久保邸 板塀

まちなみ建築部門
平成28年度受賞



塀の材料は、栗の板で、表面には亀甲名栗(きっこうなぐり)という刃先が弧型の刃物で一つ一つ板の表面を加工する手法を使っている。最終的に六角形が重なったように見えるこの形の風合いは、小京都に認定されている古河市にふさわしい景観と言える。

1 古河市立古河第一小学校 赤門

まちなみ建築部門
平成28年度受賞



赤門は、赤レンガを使用した建築物として大変価値のあるもので、歴史ある古河の教育を象徴するものであり、長年に渡り児童や地域住民から親しまれている。現在地に古河尋常小学校が明治37年10月に移転された際、建築され、以降、補修をしながら当時の姿を保存してきた。平成28年3月には門扉が復元されている。

3 クリーンクラブ

まちづくり活動部門
平成28年度受賞



平成18年より、違反屋外広告物の撤去作業を行っている。

4 古河史楽会

まちづくり活動部門
平成28年度受賞



古河は城主大名の城下町において日本で唯一城跡や模擬天守すらない「城なき城下町」である。また、本丸跡には木製の碑が一本立つのみで説明板すらない。そんな中、古河史楽会では国交省や市役所と連携を取り、古河城の図面展示などを通して知名度上昇、市民の歴史意識向上と愛郷心育成を目的とした活動などを行っている。

5 古河を美しくする会

まちづくり活動部門
平成28年度受賞



古河の産土神である雀神社について、参拝する皆さんに清々しい思いと心豊かになっていただきたい、という願いから境内などを掃除している。

6 レストラン SUNROSE

まちなみ建築部門
平成30年度受賞



昭和8年に建築された日本家屋をレストランとしてリノベーションし、当時の日本建築技術を駆使した良さと現在では手に入らない建築資材、建具を充分に残したデザインとなっており、旧日光街道繁栄の歴史を物語っている。また、敷地内には樹齢100年を超える樹木が2本あり、古河市内の中にありながら店内から観る風景は緑溢れる別世界の様である。

7 GALLERY&CAFE HYGGE (ミト写真館)

まちなみ建築部門
平成30年度受賞



ミト写真館創業者の水戸部正三郎が昭和初期に古河市紺屋町に開業して以来、長い間営業してきた場所から西に20メートルの地に移転した。2016年2月に新たにGALLERY&CAFE HYGGE ミト写真館としてオープン、営業している。HYGGE (ヒュッゲ)とは、デンマーク語で、人と人とのふれあいから生まれる、暖かな居心地の良い雰囲気という意味の言葉である。設計者は、古河歴史博物館等を手掛けた故吉田桂二氏と同じ設計事務所である。

8 古河鍛冶町みらい蔵

まちなみ建築部門
平成30年度受賞



元塩問屋として使用されてきた、歴史ある木造創りの建物を所有者である今城敏和氏から借用し、古河市の財産として活用すべく「合同会社古河鍛冶町みらい蔵」を立ち上げた。蔵を活用したまちなか再生事業による企画・運営を目指し、歴史の街「古河」にふさわしい、白の漆喰壁を基調に重厚な建物として保存された。現在、3店舗が入り、各々個性ある料理を提供し連日にぎわっている。

9 大橋醤油店 諸味蔵

まちなみ建築部門
平成30年度受賞



諸味蔵2棟(571.38㎡、419.01㎡)の中で、蔵と木桶に棲みついている微生物によって諸味を自然に発酵熟成させる天然醸造の醤油を造っている。阪神淡路大震災後、曳家をし、補修をした際、一部の七尺木桶(高さ・直径:210cm)を解体した。その時に弘化二年という刻印を見つけ、木桶は設置する建物の中で組み立てるので、諸味蔵は弘化二年以前に建てられたと推測する。土台と柱を固定せずに瓦の重みも利用することで、たわんだり傾いたりしながら地震の揺れを建物全体で受ける工法によって建てられている。

10 株式会社ぬた屋 鮎甘露煮店

まちなみ建築部門
平成30年度受賞



古河市内には200棟とも250棟とも数える様々な姿・形をした数多くの蔵がある。その蔵の宿町町に似合うものとして、老舗ぬた屋に蔵造り店(たな)を合せ、城下町古河にイメージすべく蔵を建設した。旧日光街道 古河城御茶屋口門址を曲り歴史博物館に向う文化の漂う街並に建てている。

11 諸川谷貝線沿道 八俣幸島土地改良区内清掃活動

まちづくり活動部門
平成30年度受賞



八俣幸島土地改良区の水田沿いの諸川谷貝線にて、水田及び農道の除草作業とともに、沿道に落ちているごみも拾っている。ごみや除草を放置すると病害虫の発生の要因になるので、行政区内で自主的に年2回(6月、9月)と決め実施している。活動期間は約30年間になる。

12 シニアボランティアグループ

まちづくり活動部門
平成30年度受賞



古河駅を挟んで南北高架線に沿って四季の径(みち)がある。皆さんの憩いの散歩道として多くの人が通る一角に、堆肥状態のごみの山があったが、行政に話をし、きれいに片付けた。不法投棄・犬のフンの立て看板作成、植込みの中の空きカン、空ビン拾いや、街路灯の電球切れの連絡等、多岐に渡り6年間継続して活動している団体である。

13 国道354道路 大堤 美化活動

まちづくり活動部門
平成30年度受賞



国道354道路は交通量が多く、ゴミのポイ捨てや風などでゴミが飛んできて困っていたが、平成15年ごろから除草作業と花(ルピナス・アジサイ)を咲かせるようにした。その結果、ポイ捨てゴミも減り、美観が維持され、皆様方に大変喜んでいただいている。ルピナスの花が咲くと遠方の方が写真を撮りに来る。【開花時期】1.ルピナス 4月20日~5月下旬 2.アジサイ 5月下旬~6月下旬 3.キク 11月下旬~12月中旬

14 一般社団法人茨城県古民家再生協会 古民家 山川邸における古河農泊プロジェクト

まちづくり活動部門
平成30年度受賞



(一社)茨城県古民家再生協会は、2012年に設立した。地域に残る伝統的木造建築「古民家」の現地調査をはじめ、耐震診断などの調査活動により古材(ごさい)を活かした修復再生に取り組んでいる。価値ある古民家が空き家となり放置される前に、保存、管理するだけでなく、人々が集うコミュニティの場としても再生することで、地域の景観を観光の面から見ても魅力ある存在に育てる活動を行っている。現在は古河市恩名にある築140年を超える山川邸で農業体験をしながら古民家に宿泊する農泊プロジェクトをスタートした。

15 古民家 サカカンカフェ

まちなみ建築部門
令和2年度受賞



中田は江戸時代、中田宿、栗橋宿の合宿として栄えた町で、酒井家は日光街道沿いにあり江戸時代より、旅籠、醤油蔵、特定郵便局、酒屋など商いを通して代々中田の地に根付いてきた。長男の名に「貫」の字をつけることから昔から「酒貫」(サカカン)と呼ばれている。2年前空き家となり、この「家」を残すために古民家「サカカンカフェ」として再生した。店内は古い梁や柱を残し、たんすの扉をテーブルにしたり、古材でカウンターを作ったりしている。醤油を醸造している時代に煙突として使っていたレンガがアクセントになっている。

16 一の木の地名に由来の古木と土蔵

まちなみ建築部門
令和2年度受賞



当地は飯沼東岸台地にあり、古代からの遺跡が出土する地でもあり、土蔵は江戸時代年間に(天保)六代前当主の築と記され約180年間幾多の震災、風災を乗り越え、災害の都度守り続け現在の姿を保って居り、同敷地内に樹齢約500年と言われる県指定天然記念物(イチイガシ)の古木があり、土蔵と共に景をなして居る。当地の地名は恩名小字一ノ木となっており、このイチイガシが古くより地名の由来となった証であり、現在も東仁連川の橋の名にもなっており歴史的な意味も含め維持管理をして居る。尚下屋は機織部屋として利用されて居た当時の生活がしのばれる。

17 製茶問屋 大島清吉商店 本店

まちなみ建築部門
令和2年度受賞



水戸城下と瀬戸井を結び筑波山神社への巡礼道でもあった「瀬戸井街道」沿いに位置し、大正初期の創業より地元さしま茶を始め日本各地の銘茶を扱う老舗の製茶問屋である。今回、街角の「たまりの場」となるべく改修・増築をし、『アウトドアにも日本茶を』のテーマの下、街道を行き交う人々が自然と敷地内に引き込まれるような魅力的な広場的空間づくりを行った。外観に関しては、街道や店舗の歴史、隣地に建つ国登録文化財である「亀屋商事本館」との調和を考え「茶箱」や「蔵」のイメージをモチーフにして、歴史的でシンプルな現代的形体とした。

18 酒井蔵・富岡蔵

まちなみ建築部門
令和2年度受賞



平成20年度より取り組まれた古河駅西口の鍛冶町通りの拡幅工事に伴い、古い商家建築が多く取り壊され、商家の街並みが失われそうになった。そのなかで酒井氏より保存を条件に土地・建物が古河市に寄贈された。また、富岡蔵も富岡氏が経費を負担して現在地まで2日かかりで路上70mを曳家し古河市に寄贈された。酒井家は天正2年築の石倉と数蔵蔵が、富岡家は明治39年着工の店蔵が保存された。その後、古河市により耐震修復や富岡店蔵前の古いポスト・松の木も修景され、向かいの今城蔵とともに昔の面影をしのばせている。

19 古河城お茶屋口跡に建つ陽明堂

まちなみ建築部門
令和2年度受賞



建物はどのようなものが良いか検討していたところ、日本家屋を得意とする設計家がいると紹介され、船漕造りの説明を受けた。お茶屋口になるので、普通の四角い建物よりは良いと思い同意した。古河城お茶屋口は、古河藩主土井利勝が、日光参拝する将軍や格式高い大名をもてなすために、茶屋を置いたことに始まるといわれている。

20 お茶の丸太園

まちなみ建築部門
令和2年度受賞



古河市東諸川の通り沿いに面し、長く高い板塀が続く大きな漆喰の長屋門と穀物蔵、文庫蔵そして築150年のどっしりと構えた母屋が、茶を買いに来る客を出迎えてくれる。令和元年に丸太園の蔵群の壁修復を行った。昔ながらの伝統的な工法で、土壁を塗り漆喰で仕上げ、建築当初の輝く白壁がよみがえった。蔵の明かり扉に施した「漆喰黒磨」は漆喰のウルシを塗ったような鏡面仕上げで、一見の価値がある。このような明治初頭の重厚な木造建築群が、地元の大工、左官、瓦職人の伝承された手業で修復され整えられている。

21 恩名下坪保全会

まちづくり活動部門
令和2年度受賞



当地は南総土地改良区域内に位置し、農家の家屋、その周辺の水辺や里山が一体となって美しい田園風景を形成している。近年の高齢化、少子化が進む地域住民のコミュニティを活性化する為、当会を発足した。活動内容は、遊休農地の保全管理、農道の整備、草刈、ゴミ拾い等を行っている。また、県道沿いの遊休地を利用し、50mにわたり花畑を造り、植栽、除草を多数の会員の参加により定期的に行っている。